

ハリーナ. 2012; 2(15): 12.

水俣と日本の今 その3 「思い」を継ぐ

原田利恵

甘夏の生産・加工をおこなっている「ガイアみなまた」の高倉氏は、宇井純の『公害原論』に刺激を受け、東大中退後、水俣に移住し、以来ずっと患者支援を行っている。無農薬の甘夏栽培をおこなっている「はんのうれん」の大澤氏は、患者の援農のため京都から移住し、農協の規格外ミカンをリヤカーで売り歩くところから販路を開拓し事業を拡大した。「支援二世」である彼らの息子や娘たちは、家業を継ぎ、故郷水俣の次世代の担い手として、農業の再生と地域活性化という困難な課題に取り組んでいる。